

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371401353
法人名	有限会社アートプロジェクト
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 24 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 7 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371401353
法人名	有限会社アートプロジェクト
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家
所在地	名古屋市緑区尾崎山1-1101 (電話)052-626-8280

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成19年7月24日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】(19年6月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	2 階建ての全 階 ~ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4)利用者の概要(6月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 81 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大清水クリニック・うばこやま歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人が多数のグループホームを持つ中の1つである。住宅地の中に建つ2階建てのホームで公園がすぐ近くにあり、近所の方も立ち寄りたりして地域との交流も浸透しつつある。今後月2回程度のホームを開放した喫茶デーの開催を検討している。職員は温かく愛情を持って利用者 に接していて利用者一人ひとりが大切にされ、特に重度の利用者に心のこもった介護で日々居心地よく暮らせるよう支援している。その成果としてホームに入った利用者で介護度がよくなった人が何人かいる。又週1回病院のケースワーカーとの相談を設けるなど質の高い介護・支援サービスを提供しているホームである。管理者は他方からグループホームに関する講演の依頼も受けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者を中心に限られた一部の職員の参加で行われ、それを会議で発表した。自己評価を行うことによって日頃の取り組みを再確認し、ケアの向上を図ろうとする姿勢が職員の中に出てきた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	先回の運営推進会議の内容は「ホームの1周年の現況報告」と「地域・家族からの要望」であった。その要望は職員会議の議題として職員で共有している。次回はホームの2周年と敬老の日を兼ねて9月に行う予定にしている。今後はホームの行事の日開催日を合わせるなどして、定期的に行い幅広い立場の方からの意見を取り入れる予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回のおたよりの中に日々の暮らしぶりなどの報告をしている。又、家族の訪問時に積極的に声をかけてホームに対する要望や、利用者がもらす不満などが聞けるように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、町内の清掃には利用者と一緒に公園で草刈りを行った。行事にも積極的に参加したり、近所の人も立ち寄りてもらったりして地域住民の仲間として浸透中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「なごやかに・にこやかに・あたたかく接すること」である。これは法人としての理念を基に職員全体で作上げた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に意識できるように玄関や1号館・2号館の入口に掲示してある。また職員も自分に言い聞かせながら日々のケアに取り組んでいる。	○	理念を全員で週の初めに唱和をするとのことである。今後も理念を共有し、日々のケアに実践できるような取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入している。町内の清掃には公園で利用者と職員と一緒に草刈りをした。又、行事にも参加している。今年は盆踊りには浴衣を着ていく予定である。近所のお母さんと子供が散歩の時立ち寄って遊んでいくこともある。	○	今後も地域活動や行事に積極的に参加し、地域との関係を深めていくことを望む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一部の職員と管理者とで自己評価に取り組んで、出来上がった自己評価を会議で発表した。外部評価は初めてなので、今回のことで職員も評価に関心を持つようになった。	○	今後は職員全員で評価に取り組むよう期待する。
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は今年度1回行われた。民生委員が		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今までに1回行われた。民生委員が27名も参加し、自治会長・副会長と参加が多く場所に困ったほどである。その時には地域や家族からの要望も聞くことができた。又、ボランティアの紹介なども協力してもらうことができた。	○	今後は定期的に運営推進会議を開催されるよう望んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の介護福祉課の窓口担当者とのつながりはあるが、サービスの質の向上に取り組むような課題の解決や相談などのできる関係には至っていない。	○	従来の行政のつながりを更に深め運営推進会議等も活用しながら、積極的な連携の取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の家族へのおたよりの中に日々の暮らしぶりや健康状態のことなどを一筆書いて報告している。金銭管理は現金出納を報告してサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に良好な関係づくりをすることで意見を引き出すように努めている。又、申し立て用紙があり、それに要望などが書かれると内容によっては本部に相談しその指示を受けて対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	おおよそ半年に1回くらいユニットごとの異動がある。常日頃職員がユニットを行き来しているため、顔なじみとなり良い関係ができていて、利用者へのダメージは少ない。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示して、受講希望者にはシフトに組み入れて考慮している。個人で行く場合は休日扱いとなる。研修内容を職員で共有する場面はない。	○	研修を受けてきた人はその、レポートを職員に回覧するかホームの方針として伝達講習を習慣付けることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・計画作成者は月2回程、同法人のグループホーム情報交換会に出席している。又、グループホーム連絡協議会の分科会などに参加し、情報交換を行うことによりサービスの質の向上を図っている。	○	今後も交流会を通じて、技術や知識を身につける取り組みをされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅からのホーム利用希望者は家族と一緒に来てもらい、見学を兼ねてお茶を飲みながらホームの雰囲気を感じて見てもらっている。又入院されている場合は本人、家族からの聞き取りに管理者とケアマネージャーが病院に出向いている。その後判定会議を開き、入居を決定している。どちらも納得の行くサービス利用となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者でノートに1日の活動を事細かに記載している人から生活状況を教えてもらったり、調理方法を尋ねたり、日常生活で職員と利用者が共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話から希望や意向の把握に努めたり、日々の行動や表情などから真意を察し、それを職員間で話し合いできるだけ本人の意向に合うよう支援している。会話の少ない人には家族から情報収集を行なっている。	○	今後も利用者本位の支援をされる事を期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人の希望や家族の要望を聞き、職員間で話し合い作成している。ケアチェック表が入浴、排泄、食事と細かく分かれており、利用者の現状が分かり易いものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の見直しを行っている。又状態に変化が見られる時は本人・家族や協力医などと話し合い、随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
つ					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りやお寺参りなど利用者の要望に応じて対応している。又通院などで家族の対応が出来ない時に要望があればホーム職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診があり、相談や夜間往診も可能となっている。7月から精神病院のケースワーカーにより定期的訪問がされ相談や助言を得ている。利用者の要望で馴染みの病院への受診支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体法人が病院である。重度化や終末期の場合の適切な判断をして、移送する協力体制は出来ているが、しかしホームの方針はまだ出来ていない。	○	母体法人が他県の為、ホーム独自の重度化や終末期に向けての方針を検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の利用目的については、利用者、家族に同意を得ている。一部の職員を除き、利用者のプライバシーを損ねるような言葉かけは無かった。	○	職員会議などで利用者との日常の関り方を話し合い、利用者の誇りについて考えて見る事や、言葉使いの見直しをされ、職員の質の向上を図られることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の個々の生活パターンができていて職員は利用者本位の支援をしている。又墓参りやお寺参りなど利用者の要望があると、対応している。	○	今後も利用者本位の支援をされる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員と一緒に準備している。職員は利用者と同じ食事を食べる人、弁当を持ち込む人どちらも一緒に食事を楽しんでいる。食事の後かたづけも自然に利用者が協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は14時から入浴となっている。一人で入る時や気の合う者同士で入る時もある。又利用者で同姓介助が希望の人は職員を交代して対応している。入浴は基本的には毎日となっているが、利用者が気が進まない時には時間を少しおき勧めているが、強制はしていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短歌の好きな人、ちぎり絵の好きな人、串カツを作るのが上手な人、洗濯物をたたむのが上手な人などそれぞれに得意分野を職員がうまく引き出して、日常生活の支援をしている。	○	今後もいままでのように、利用者の得意分野を職員が上手引きだして、日常生活の支援をされる事を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、週1回の喫茶店、月1回の外食などの他に自宅に帰ったり、墓参り、家族との外食など個々の希望に合う支援をしている。	○	今後も利用者の要望に出来るだけ添った支援を期待している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はほとんど施錠はしないようにしているが、入浴などや買い物に出かけ職員が不足した場合に数分程度であるが施錠する時がまれにある。ほとんどが玄関はオープンなので利用者は外に出て玄関前のベンチに腰かけている様子が見られる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年9月に消防署の職員の協力により避難訓練を実施している。緊急連絡先は事務所においてある。近隣との関係も良好の為協力を呼びかけるよう心がけている。非常食は50食分を備蓄している。	○	近隣の住民を交え、定期的に避難訓練を実施して避難誘導がスムーズに出来る様に、又地域との協力体制も確立されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分摂取量は概ねとれている。体調変化が見られる人には水分摂取量、食事量など詳細に記録されている。	○	水分摂取量も必要な情報の一つとして記録に残されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外にはベンチが設置され、共用空間にはテーブルとテレビの前にはソファが置いてある。浴室・トイレ共に手すりやドアノブが工夫され使い易くなっている。エレベーターも担架が入るように工夫されている。リビングから公園が見え、季節感があり居心地良いホームである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、趣味の短歌、刺繍、又家族の写真などが飾られていたり、嫁入りの時のタンスなどが置いてあった。居心地良く過ごせる居室となっている。		